

書評

みんなのくらしと放射線

汐見 信行*

Use of Radiation in Human Life

Nobuyuki Shiomi

みんなのくらしと放射線

「みんなのくらしと放射線」知識普及実行委員会 編

ほとんどの日本人にとって放射線とは“X線など医療に役立っていることは知っているけれど、なんとなく怖い”といった認識ではないでしょうか？広島、長崎に投下された原子爆弾によるすさまじい被害や、第五福竜丸事件などをおして怖いイメージが出来上がっており、放射線を学習する場がほとんどないのが現状でしょう。一方で現在の社会では放射線の利用はどんどん進んでいて、放射線なしに生活は成り立ちません。

本書を編集した「みんなのくらしと放射線」知識普及実行委員会は大阪府立大学を中心とした関連9団体からなる実行委員会で、現代の放射線の正確な知識を一般の人に理解してもらうための活動を25年の永きに渡っておこなっています。その活動の中心は毎年夏休み中におこなう、親子参加型イベント「みんなのくらしと放射線展」です。この本はそのイベントの中身をわかりやすく解説したものであり、かつ最新の放射線に関する知見を網羅した内容になっています。

大きく章に分ければ、1. 放射線とは何か？、2. 放射線はどこまで安全か、3. くらしの中で放射線はどのように利用されているか、4. 放射線は医療にどのように利用されているか、5. 放射線は科学の歴史の主役か、にまとめられていて多くの大切なことがこの本の中に網羅されています。また最新の写真やわかりやすい解説図を随所に添付して、いっそう理解しやすい内容になっています。

放射線および放射線同位元素はその有用性のために私たちの日常生活に驚くほど、その利用が普及しています。しかしそれらが正しく理解されているかははなはだ疑問です。放射線と放射能の違いを正確に説明できる大学生もそう多くないのが現状です。

本書は各種放射線やそれらの物質との総合作用の正しい理解の一助になることと思います。

なお本書の紹介者、筆者も執筆人の一人として参加しております。興味のある方のご一読をお勧めします。

発行所：大阪公立大学共同出版会（2008, 5月）、（〒599-8531 堺市中区学園町1-1, 大阪府立大学内 072(251)6533）

印刷所：和泉出版印刷株式会社、

（汐見信行：四條畷学園短期大学・介護福祉学科）

— 2009. 1. 14 受稿、2009. 1. 17 受理 —

* 四條畷学園短期大学 介護福祉学科